

LIVE REPORT

07|22 sat. 広島グリーンアリーナ

SPITZ

結成30年、広島初アリーナ。名曲揃いの中で交わされた未来への約束

ライブ直前、普通は事務的なアナウンスでコンサートの注意事項が読み上げられるところで急に生々しい声流れ出した。声の主は夢音地でスピッツを担当するオオヤマと名乗る人物。オオヤマさんは今回広島では初となるスピッツのアリーナ公演が実現したこと、それも同時刻に宇品で「広島みなと夢花火大会」、マツダスタジアムでカープ戦が行われているにも関わらず、この日と明日の両日ともソールドアウトになったことに感謝の意を表し、バンド結成30周年に祝福の言葉を述べて客席を沸かせた。なんと手作りで、なんとスピッツらしいアニバーサリーの幕開けだろう。ひとりで言うと、愛されてる！

そんなホカホカする想いを抱えてはじまった【SPITZ 30th ANNIVERSARY TOUR “THIRTY30FIFTY50”】(バンドは結成30年で、メンバー全員50歳になるという意味)はとにかく冒頭の勢いと構成がすべてを象徴していた。軽快なエイトビートに乗って最新オリジナル盤のタイトルトラック『醒めない』(2016年発売、15枚目のアルバム『醒めない』収録)を演り、そこから『8823』(2000年発売、9枚目『ハヤブサ』収録)、『涙がキラリ☆』(1995年発売、6枚目『ハチミツ』収録)、デビュー曲の『ヒバリのこころ』(1991年発売、1枚目『スピッツ』収録)と続いていく。つまり直近の曲から最初期の曲まで一気に時代をカウントダウン。ツアー直前に3枚組コンプリート・シングル・コレクション『CYCLE HIT 1991-2017』が出たこともあるが(MCでクドいくらいに「これはベスト盤ではなくシングル・コレクション!」と言い張っていたメンバーが微笑ましい)、まさにキャリア全体を網羅する、ほとんどコンプリート・シングル・コレクションと呼べる内容のライブである。

それにしてもスピッツのシングル・コレクションとなると名曲の連打感がハンパない。『君が思い出になる前に』『チェリー』『ロビンソン』『楓』あたりが惜しげもなく披露される様は四尺玉級の大玉花火がドッカンドッカン打ち上げられるようで、しかしそれだけに留まらず『エスカルゴ』『猫になりたい』『夜を駆ける』といった知る人ぞ知る楽曲もちゃっかりインサート(2日目は『エスカルゴ』の代わりに『波のり』を演奏)。さらには前述のシングル・コレクションに収録した最新曲『ヘビーメロウ』もプレイ。個人的には「正夢」が改めていい曲だなと思ったのだが、こういった



SET LIST

- | | | | |
|----------------|----------------|---------------|-----------|
| 01. 醒めない | 08. チェリー | 15. 楓 | 22. 俺のすべて |
| 02. 8823 | 09. スターゲイザー | 16. 夜を駆ける | 23. 1987→ |
| 03. 涙がキラリ☆ | 10. 惑星のかけら | 17. 日なたの窓に憧れて | ENCORE |
| 04. ヒバリのこころ | 11. メモリーズ・カスタム | 18. 正夢 | 01. 歌ウサギ |
| 05. ヘビーメロウ | 12. エスカルゴ | 19. 運命の人 | 02. 春の歌 |
| 06. スカーレット | 13. ロビンソン | 20. 恋する凡人 | |
| 07. 君が思い出になる前に | 14. 猫になりたい | 21. けもの道 | |

再発見の喜びがあるのもスピッツならではの懐の深さである。

近年スピッツは原点回帰というか、バンドをはじめた頃の初期衝動を取り戻したようなエキキとした姿勢が印象的だが、ステージ上の4人もやはりそうだった。ただただ愚直にロックバンド。自分たちの小市民ぶりも不器用ぶりも含めて愛して、それを素直にリスナーと共有しようとする健やかさが感じられる。30年やってもMCは苦手のようだが、それでも別にいいじゃないか! (笑) そして我々がリスナー側は、そんなマインド的にピョンピョン跳ねている彼らの姿を見てシアワセな気分になるという仕組み。もうここまで来たら彼らが元気で楽しそうに音楽を鳴らしてくれていたならそれでいい——そんなふうに心で思ったファンの人も多いのではないだろうか。



本編最後のブロックは『運命の人』を皮切りに、ロックに燃え上がる流れを経て、最新曲のひとつである『1987→』でシメ。バンドの結成年をタイトルに刻んだビートバンクな楽曲は、ある意味今回のツアーのテーマソングと言える。草野は“ザコキャラなまんな”なバンドの姿を描いた後、“それは今も続いている”と繰り返す。それはおそらく「こんな俺たちだけど、これから一緒に歩いていきましょう」という呼びかけであり、つまり彼らは結成40年、50年、僕らはおじいちゃん、おばあちゃんになるまでずっとスピッツの音楽を聴き続けるということだろう。この付き合いは一生もの——と、そんなことを改めて確信させられた夜だった。

スピッツ結成30周年記念

コンプリート・シングル・コレクション

out now!!



『CYCLE HIT
1991-1997
Spitz Complete
Single Collection』



『CYCLE HIT
1997-2005
Spitz Complete
Single Collection』



『CYCLE HIT
2006-2017
Spitz Complete
Single Collection』



『CYCLE HIT
1991-2017
Spitz Complete
Single Collection
-30th Anniversary BOX-』